

概要

- 煎茶需要が縮小する一方で、抹茶を含む粉末茶の海外での需要が拡大し、特に有機てん茶の需要が高まっている。需要動向に応じた、てん茶生産・加工能力の向上と有機茶栽培技術の検討が急務となっている。
- 志太榛原農林事務所では、茶工場でのてん茶設備の新設・増設に向けた計画検討や整備後のてん茶品質・生産量確保のための栽培技術指導等を支援するほか、栽培面積拡大のための農地集積等を進めている。
- これにより、てん茶加工施設の整備が進み、管内てん茶生産量は着実に増加する傾向にある。また、有機茶栽培技術の普及に向けた技術実証を進めた。

具体的な成果

1 てん茶工場の新設・増設に向けた支援

- 管内のてん茶製造能力の拡大 (R3→R6)

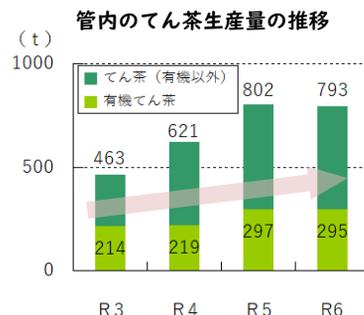
- ① てん茶生産量(ト) 171% (463ト→793ト)
- ② うち有機てん茶(ト) 138% (214ト→295ト)
- ③ てん茶工場(工場) 4工場増 (13工場→17工場)

2 経営安定及び栽培規模拡大に向けた取組

- 栽培面積の拡大に向け、地域と担い手との話し合いの場の設定を、市町・JAと連携して実施 (1地区:4ha)
- 基盤整備地における有機茶栽培開始に向けた指導 (1地区:7ha)
- 有機JAS認証取得に関する講習会の実施 (有機転換茶園2地区:7ha)

3 新たな有機栽培技術の実証

- 乗用型茶園クリーナーによる病害葉(炭そ病)除去による防除効果の確認
- 有機液肥利活用技術(局所施用法)によるてん茶荒茶品質の向上の確認と年間施肥計画への反映



有機JAS認証講習会



乗用型茶園クリーナーによる病害葉(炭そ病罹患葉)の除去



有機液肥の局所施用処理(茶株雨落ち部)

普及指導員の活動

令和4年度～
令和6年度

- てん茶施設・設備の新設・増設に向けての生産・収支計画等の検討と整備後の有機栽培技術の導入・次年度の生産計画の検討
- 栽培規模拡大に向けた農地集積や基盤整備の推進
- 有機栽培茶園における生育調査・荒茶品質分析と生産加工計画への反映
- 乗用型茶園クリーナーや有機液肥利活用技術等の有機栽培技術の現地検証

普及指導員だからできたこと

- 専門技術を持ち、試験研究機関の知見がある普及指導員だからこそ、有機栽培における有機液肥を活用した荒茶品質向上技術を提案し、地域に適した栽培方法の導入させることができた。
- 日頃から取組経営体の経営意向や方針をリアルタイムで確認し、関係機関と情報共有を行っているため、目的達成に向けた手段を提案することができた。

静岡県

海外輸出需要に対応したてん茶栽培加工経営体の育成

【地域特性を活かした茶生産体制の再構築と持続可能な経営体育成】

活動期間：令和4年度～（継続中）

1. 取組の背景

- ・ 茶の消費形態の変化により煎茶需要が縮小し、荒茶価格はかつてないほど低迷しており、このため、需要動向に応じた茶生産への転換が急務である。
- ・ 一方で、健康志向や日本食への関心の高まりなどを背景に、抹茶を含む粉末茶の海外での需要が拡大している。国内では、てん茶は煎茶の2倍以上の荒茶価格で取引され、特に有機てん茶の需要が高まっている。
- ・ 管内では、令和3年度時点で、有機てん茶加工を行う7工場を含む13のてん茶工場が稼働しているが、需要を満すにはまだ足りておらず、また、てん茶施設整備後の有機茶栽培の推進に向けた栽培技術の検討などが課題である。

2. 活動内容（詳細）

(1) てん茶工場の新設・増設に向けた支援

てん茶施設・設備の新設・増設にあたっての生産・収支計画等の検討と整備後のてん茶品質・生産量確保のための栽培技術指導等を支援。

また、てん茶栽培面積の拡大に向け、担い手が不足し茶業の継続が困難となった地域と担い手をマッチングするための話し合いの場の設定等を、市町・JAと連携し実施。

(2) 有機茶栽培推進に向けた栽培技術の検討

有機茶栽培の普及・推進のため、有機栽培を志向する経営体での有機JAS認証取得に関する講習会の実施や、栽培技術の現地実証を進めている。

- ・ 病害発生抑制のための乗用型茶園クリーナー技術の現地検証
- ・ 有機液肥利活用技術の現地検証



担い手と地域とのマッチング

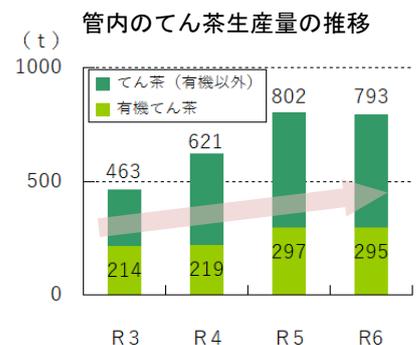


有機 JAS 認証取得に関する講習会

3. 具体的な成果（詳細）

(1) てん茶工場の新設・増設に向けた支援

- ・ 令和4年度に3工場が新設され、令和6年度に1工場の新設と2工場の設備が増設された。令和7年度には、17 てん茶工場が操業することとなり、そのうち11工場では有機てん茶を扱うこととなった。



- 令和7年度のてん茶生産量を、令和3年度（463 t）の2倍の929 tに増加させることを目標に取り組んでいる。令和6年度の管内のてん茶生産量は793 t（目標比85%）と、着実に増加する傾向にある。しかし、そのうち有機てん茶は295 tと令和7年度目標の69%に留まっている。

（2）有機茶栽培推進に向けた栽培技術の検討

- 病害（炭そ病）発生抑制のための乗用型茶園クリーナー技術の現地実証では、罹患病葉の除去による病害発生を抑制を確認。
- 有機てん茶品質向上及び施肥コスト削減のための有機液肥利活用技術の現地実証では、有機液肥の少量局所施用（茶株雨落ち施用）で、てん茶品質の向上を実現。現在、施肥コスト削減に向けた固形肥料のうね間施用と組み合わせた年間施肥設計の見直しを行っている。



乗用型茶園クリーナーによる
病害葉（炭そ病罹患葉）の除去



有機液肥の局所施用（茶株雨落ち部）処理

4. 農家等からの評価・コメント（島田市・てん茶生産法人・A氏）

高品質な有機てん茶生産のための肥培管理技術やてん茶工場施設整備のための支援を頂き、経営向上が図られた。

5. 普及指導員のコメント（志太榛原農林事務所・主任・岩本耕太郎）

厳しい茶業情勢の中、収益性の高い新たな取組としての輸出向け有機てん茶栽培の拡大を進め、茶業経営体の方向転換を推進する。

6. 現状・今後の展開等

- 管内における輸出用茶（有機茶・てん茶）の加速的な取組拡大に向けて、有機栽培向け品種への転換や被覆資材の導入推進を図る。
- 有機てん茶の生産加工を志向する茶業経営体への認証取得の勉強会の開催や既存の有機てん茶生産加工経営体とのマッチングを推進し、「儲かる茶業（成功体験）」への意識転換による取組実現を図る。